

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	しんがくどう福岡東				公表日	2026年 3月 23日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		パーティションや個室で場所を区切って活動を取り組んでいる。ダウンルームやクールダウンする部屋の確保が出来ている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	3	子どものリスクを考慮してヘルプに入れそうなスタッフに事前に声掛けしている	発作などが起きている児童がいる場合はヘルプを要するため、余剰も含めて人員配置を十分なものにする必要がある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		手すりがあったり、視覚提示できている	視覚提示などで分かりやすい状態になっているが、物が多いため視覚情報も多くなっている。環境設定を行っていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	毎日掃除は必ず行うようにしているため清潔に過ごせている。注意散漫になりそうなお子さんにはパーティションを設置している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		子どもの情緒によって個室でクールダウンを促したりが可能となっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		定期的にミーティングや個別で話す機会がスタッフ同士にあるためそこで確認ができている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	面談などで保護者からの意見を聞いている	保護者からの意見などが役職内でとどまっているため下に降りてくる機会が少ない。全体で共有できる環境を再度構築していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		必要な情報を交換するために、職員ミーティングなどで話し合いをする機会を設けている。スタッフ間で子どもとの関わり方以外にも業務内容などについて共有し合い、改善できるところから取り組んでいる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	繋がられてる部分と繋がられていない部分がある	外部評価をしていないことはないが、どういった結果が出ているかを把握できていない。今後共有していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	研修の案内などを全体に周知できている	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		計画書作成アプリの使用で全体に共通認識ができている	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		保護者との面談前に計画書案を作成しそれをもとに面談で出た内容を踏まえたものを付け加えたりして提案している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		計画書作成アプリを介して意見や考えを統合できている。子どもの療育時間を確保できるようにスタッフの配置について事前に共有を行う。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		計画書作成アプリで全員が見られる状態のため共有されている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		多職種で情報を共有している(セラピストにアセスメントをしてもらうなど)	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			移行支援について今後どういった方針で行っていくかを定める必要がある

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		子ども同士の相性や能力などの観点から、合うかどうかをスタッフ間で確認しながら取り組んでいる。昼礼時にリスクのある子やスタッフの配置について情報共有を行う。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		子ども同士の相性や能力などの観点から、合うかどうかをスタッフ間で確認しながら取り組んでいる。子どもの調子の度合いに合わせて内容も含め、意欲も大事にしながら取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		その日の状況に合わせて柔軟に対応できている。学校が終わって早く帰って来た子から先に個別療育を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	多職種での話し合いできている	完璧にできているとはいえない。児童の下校時間などに合わせて、打ち合わせができない日は、前日などに行い連携していく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	4	1	特定の時間を設けているわけではなく、雑談のような形で活動中の様子などを共有しあっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		記録を見返しながら活動時の対応などを変えている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		支援計画書をもとに、モニタリング作成、見直しが行えてる。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5		課題点と合わせて実施できている	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		様々な目線で対応できている。自己判断ができる児童には促し、難しい児童には助言などをして練習が出来ている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		状況に応じて、こちらから関係機関に打診したりと参画できている。療育に携わっているスタッフや訪問支援に行っているスタッフなど複数の目線からの意見を提示しながら参画できている	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		教育機関と放デイと保護者間での連絡ノートなどで様子を共有している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	学校、保護者とも連絡をとりながら行っている（連絡帳、メール、電話など対応できる手段複数あり）	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	そのまま放デイを利用できる状況ではないが、保育所等を利用する場合など必要に応じて対応している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	2	出来ない場合は他スタッフに意見をもらいながら行っている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2		周辺に放課後児童クラブなどの施設が少ない。必要に応じて環境を設定していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	一部のスタッフが参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		面談以外で、必要時は電話などでも対応している	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1		研修案内などに目を向け提案するようにしていく	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		契約時に諸々の説明をまとめて行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		定期的な面談で確認の場を設けている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		面談時に計画書案を提示しながら説明し同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		スタッフ間でも共有し、同様の事案があった際などには対応案を共有している	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	2	実施している。	実施したが、参加人数がふるわず、日時、場所等の改善が必要。保護者からは継続して行ってほしい旨があがっている
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		ご意見を頂いた際には迅速に対応している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		保護者にもSNSの利用に関する同意を得て写真などを用いて様子を伝えている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		保護者と個人情報の取り扱いについて確認、同意を得ている。既に処理済みとなった個人情報などは早急にシュレッダーで破棄している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		環境設定や手段の変更などでコミュニケーションを円滑に取れるようしている	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2		そういった行事行ったことがないが、今後行う予定	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			行えているが年間計画を見直し、もう少し頻度を増やす
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	2		年間スケジュールの見直しが必要
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		てんかん発作がある児童に関してはどういった発作かも周知している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1		現在食物アレルギーのある児童がいないが、緊急時の対応の徹底と対応のマニュアルに沿って行っていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		行っているが、十分ではないため見直しが必要
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		面談等で共有している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		可能な限り当日中にヒヤリの内容や対策を考え、全体に共有している。スタッフ間で関わり方の振り返りを行い、環境調整や注意点などの共有を行う	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	2		完全な対応ができていない状況ではない(定期的な研修の見直しが必要)
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		契約時に説明をしている		